

# TEMPOROLOGY

Vision  
vol. 11

白井屋ホテルと周辺地域開発プロジェクトに見る  
これからの街づくりに求められるもの

2020年12月、群馬・前橋において300年以上続いてきた歴史ある「白井屋旅館」が「白井屋ホテル」として生まれ変わり開業した。同ホテルには、国内外で活躍する建築家やアーティストといったトップクリエイターが集い、元の建築と周辺の地域性を取り入れながら“街のリビング”的空間が立上がっている。今号の冒頭では、白井屋ホテルの空間や設計を担当した建築家・藤本壮介氏、また「めぶく。」を標榜する前橋の街づくりと、そこに携わったキーマンたちにフォーカスする。

ゴ  
ザ  
テ  
ク  
ノ  
ロ  
ジ  
ー

02 *Vicio Line* 藤本壮介 / 永山祐子 中村竜治 長坂常 高濱史子 /  
06 *Perspective I* 日本財団 / 08 *Session* 松阿正剛 隈研吾 / 12 *Insight* 徳貝知子 / 13 *Perspective II* 吉本大史 /  
16 *Perspective III* 佐藤航 青木耕治 井上佑七 / 18 讃嘆茶室 十五六 / 19 *Future Session* 原研哉 齋藤精一



# 東京アメリカンクラブ日本橋

文

## 吉本大史

Daishi Yoshimoto

(株)ヨシモトアソシエイツ代表



バー「Muromachi」の横にはアメリカンクラブのアーカイブフォトギャラリーがある。Photo:ナカサ&パートナーズ

日本橋エリアの情報発信拠点となる最新の大規模複合ビル「日本橋室町三井タワー」に「東京アメリカンクラブ日本橋」が2021年春オープンした。ここは、東京アメリカンクラブ初のサテライト。シンプルで本物の素材を贅沢に使った空間で供せられるくつろぎとおもてなしというが、会員でなければ入ることができないとあきらめかけたところ、テンポロジーメンバーのUDSとヨシモトアソシエイツの吉本大史氏が、設計デザインを担当していたと知り、早速話を伺い、「日本人がつくったアメリカンクラブ」に挑戦した経緯やデザインのポイントを、ご本人自ら書いていただいた。

東京アメリカンクラブ(以下TAC)は1928年に設立された会員制クラブです。会員数は約4000人、家族会員を含めると一万人以上で、世界有数の歴史と規模を誇ります。戦中、戦後に幾多の移転・建替えを経て、現在のクラブハウスは港区麻布台にシーザー・ペリのデザインで2011年に完成しています。今回のプロジェクトはTACとして初のサテライト施設で、2021年春にオープンしました。

本プロジェクトでは、三井不動産が官民地域一体で推進する「日本橋再生計画」の一環として、「日本橋室町三井タワー」6階のオフィスロビーに面した区画にTACを誘致しています。2019年夏頃、デザイナー選定のためのコンペがありました。私の知人が当時レンドリースジャパンでTACのPMをしていた関係でコンペに招待して頂き、UDSが選ばれました。

事業主の三井不動産がプロジェクトマネジメントを主導する一方で、デザインに関しては運営者のTACに任せるスタンスをとっていました。アメ

リらしいな、と思ったことの一つは、TACの中でプロジェクトを推進していたのが会員のボランティアで構成するタスクフォース(委員会)だったことです。デザインに関することは全てタスクフォースのメンバーで審議したあと、リーダーが最終的な決定を下します。そのプロセスの透明性やユーザー目線の様々な指摘は非常に勉強になりました。例えば、プランの取まり上どうしても女子のサウナ室が0.2㎡程男子側より小さくなってしまったとき、それが同じになるまでOKを出してもらえませんでした。UDSが基本設計を終えたあと、入札で丹青社が設計施工者として決まり、我々はデザイナーの立場で最後まで設計と工事を監修しながら、平行して家具やアートの選定に関わりました。

規模の比較で言うと、TAC日本橋は、麻布台の約16分の1です。1650㎡の床面積は店舗スペースとしてはとても大きいですが、麻布台のスケールに慣れた会員から見ると小さい。そこに麻布台と同じデザイン言語を持ってきてしまうと、

単に「小さな支店」ができたように見えてしまうことは明らかで、そう見えないう、当初より独自のキャラクターを持たせることにこだわりました。

そもそもクラブハウスという言葉には「地上に建っているもの」というイメージがあります。超高層オフィスビルの中間階にありながら、地上に建つ一軒屋に入ったような感覚になれば面白いな、という発想と、高級なクラブでありながら肩肘張らないリラックスできる空間にしたい、という思いから「A Large Home(大きな家)」というコンセプトワードを立てました。アメリカの「大きな家」として最初に思い浮かぶのはパサデナの「ギャンブルハウス」です。何年か前にそこを訪れたときの、木の大屋根に覆われた大邸宅の強い印象が今回目指しているものと重なり、木の

大屋根が「家」の隅々まで連続する基本的な空間イメージが固まりました。今回はインテリアなので「屋根=天井」ですが、レジデンシャルなスケール感をもたらす要素として、ロビー、フィットネスジム、バー、レストラン、VIPルームの各エリア



一本の木を三次元に曲げる高度な熟練技術が生み出す、優美かつ力強い木フレーム。

適度な張りとうららかなさを合わせ持つ優しい座り心地と高い耐久性及び軽量化のメリットを得られるメッシュシートを採用。

従来ノックダウン方式の為に見えていたビス頭を隠した端正な納まり。

座枠の丸面と前脚の精緻なジョイントは、大量生産前の手工芸的な曲木椅子の品格に習う。



ROCKSTONE  
株式会社ロックストーン | 本社  
〒150-0001東京都渋谷区神宮前3-6-5  
TEL | 03-6271-1619 FAX | 03-6271-1629  
www.rockstone.co.jp



を折り重なりながら連続する木の傾斜天井が施設全体の一体感を生んでいます。あまり多くの素材を使わないほうが「家」らしいと思い、床・壁・天井の突板と家具の木部は全てアメリカンブラックウォルナットに限定しています。それを基軸としながら、「水の都・日本橋」をテーマにデザインしたカーペットや照明器具、各所に配置されたアート等がアクセントになるようにしました。また、「光のコントロール」は「家」コンセプトの重要なファクターで、麻布台との違いを出している部分のひとつです。昼も夜も照度のコントラストを強めることで光の存在感を高めるような光環境を目指しました。大きなガラスファサードがちょっともったいないのですが、日中の自然光で内部が明るくなり過ぎないように、勾配天井を窓に向かって極力低く下げて窓の高さを絞って

ます。夜間においても明暗のコントラストを強くすることで落ち着いた雰囲気を作っています。麻布台が「アメリカ人がつくったアメリカンクラブ」であるとすれば、日本橋は「日本人がつくったアメリカンクラブ」となります。そのことの意味は結構考えました。アメリカのモダン住宅のような水平に展開する大らかな空間が、日本の精緻な手仕事で構成されることを意図して、建具等のディテールには特に注意を払っています。実は「アメリカらしさ」の捉え方は当初はTAC側と必ずしも一致しませんでした。TAC日本橋はビジネス利用を想定して成人利用限定にすることが決まっていたため、ファミリー施設のTAC麻布台よりもっとクラシカルな重厚感やゴージャス感のようなものを求める意見もあった中、堅苦しさのないモダンなデザインにどう落とし込むかを模索しまし

た。椅子の脚のプロポーションや背の高さに、そのせめぎ合いの跡が一部残っています。TAC日本橋は、ほぼコロナ禍で設計、施工が進みましたが、関係者の強い意気込みで、開業を迎えることができました。個人的にはプロジェクトの途中でUDSを退職、独立しましたので、とにかく色々な事が重なる中で走り抜けた感じです。先日グッドデザイン賞を受賞できて、プロジェクトとして区切りを迎えた気持ちです。江戸時代からの商業の街、日本橋に国際的なビジネス交流の拠点ができたことの意義は大きいと思います。会員制クラブなので一般の方々への露出が少ない施設ではありますが、これを機に日本橋エリア全体の知名度が国際的にも高まることを期待しています。

吉本大史 Daishi Yoshimoto  
(株)ヨシモトアソシエイツ代表取締役/建築家  
1970年東京生まれ、パナマ育ち。フロリダ大学建築学部卒。カリフォルニア大学バークレー校大学院修了後、サンフランシスコのスタンレー・サイトウィッツ設計事務所勤務。竹中工務店で20年間にわたり、フランス大使館建替事業、トライセブン六本木などの海外経験を活かした外資系・大型プロジェクトのほか、集合住宅、商業ビルの設計を担当。のちにUDSで設計担当執行役員として主にホテル、商業施設の建築・インテリア設計を手掛け、独立。アメリカでの活動中にカリフォルニア州建築家ライセンスを取得し、アメリカ建築家協会(AIA)に加盟。05年に有志で日本支部(AIA Japan)を設立し、15年に一般社団法人アメリカ建築家協会日本支部として組織を法人化。18年日本支部理事長を経て現在国際支部(AIA IR)日本代表理事。

# TOKYO AMERICAN CLUB NIHONBASHI



1. 「水の都 日本橋」をテーマにデザインしたペンダントとカーペット
  2. 木の天井で覆われた最新のフィットネス機器が並ぶフィットネスジム
  3. レストラン「American Room」とバー「Muromachi」は同じ天井に覆われている。
  4. VIPルームの名前「1673」は三井越後屋呉服店創業の年。壁にはフランス・シゴのアートがある。
  5. コーナービューがある個室ダイニング
- Photo:ナカサ&パートナーズ

#### DATA

発注者：三井不動産  
運営者：東京アメリカンクラブ  
基本設計・デザイン監修：UDS+ヨシモトアソシエイツ  
照明デザイン：内原智史デザイン事務所  
アートディレクション：AIT  
実施設計・施工(C工事)：丹青社  
実施設計・施工(B工事)：鹿島建設



東京・恵比寿の防音体験ルーム  
『EBISUTA (エビスタ)』

施工実績3,200件超  
防音・音響工事のパイオニア

## 環境スペース株式会社

会社ホームページ

Kankyo Space Inc.



防音専門サイト

soundzone







# MARKET

人とモノをつなげ、本物のデザインを見つけることができるECサイト「市場=マーケット」

market.jp

